

【短報】奄美大島産デオキノコムシ属続報

筆者は2006年に、鹿児島県奄美大島に産するデオキノコムシ属 *Scaphidium* の正体未確定の種について報告した(保科, 2006)。その内容を簡単にまとめると、1) 1960年に同島で捕れた未同定のデオキノコムシ属の1個体がある、2) この奄美産標本は本土に普通に生息するヘリアカデオキノコムシ *S. reitteri* Lewis, 1879 に似ている、3) しかし、奄美産標本は体サイズが4.5 mmで、明らかに本土のヘリアカデオキノコムシより小さい、4) 加えて前胸板および上翅の黒色斑紋も小さい、5) 一方、個体変異が少ない形質である上翅点刻については、奄美産標本のそれは本土産と比べて明らかに大きい、6) この奄美産標本はメスなので現時点では確実な同定がし難い、7) 筆者を含め誰も1960年以降奄美大島で、この標本と同じ特徴を持つデオキノコムシを捕っていない、等となる。

2015年夏、筆者は福島県在住の草野憲二氏から同年4月に同氏が奄美大島にて、上記の特徴を持つ奄美大島産デオキノコムシ属1ペアの採集に成功したとの情報を得た。この2個体の採集データは以下の通りである。

1 ♂, 鹿児島県奄美大島奄美市中央林道 (alt. 200–300 m), 9. IV. 2015, 草野憲二採集 (ウスヒラタケより採取)。

1 ♀, 同市中央林道 (alt. 240–270 m), 9. IV. 2015, 草野憲二採集。

筆者が草野氏の御厚意によってこの2頭のデオキノコムシ属の標本を調べたところ、以下のことがわかった。

1) 外部形態は保科(2006)で紹介した1960年採集の1メスとほぼ同じ特徴を持つ。今回調べた2標本の体サイズは約4 mmで、1960年採集個体よりもさらに小振りである。

2) オス交尾器の内袋骨片の形質は本土産ヘリアカデオキノコムシと酷似する。

以上をもって、筆者は奄美大島産の正体未確定標本を今回ヘリアカデオキノコムシと同定した。もっとも、奄美産ヘリアカデオキノコムシは本土産同種と比べて地理的形態変異を有しており、特に上翅点刻の大きさの違いは際立つ特徴である。よって、人によっては、これらの形態差でもって奄美産ヘリアカデオキノコムシを亜種記載すべきとの考えを持たれるかもしれない。しかし、検視標本が少ないことから、筆者は新タクサの設立を当分見合わせる。そして、本稿では上記の奄美産ヘリアカデオキノコムシの地域的な変異を確認するとともに、保科(2006)の「琉球産デオキノコ

ムシ属の検索表からヘリアカデオキノコムシを省く」との措置を削除する。また、日本産デオキノコムシの寄主キノコについてはほとんど知見がないが、奄美産ヘリアカデオキノコムシはウスヒラタケを食することを今回報告しておきたい。

末筆ながら、今回貴重な標本を調査する機会を与えてくださった草野憲二氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

保科英人, 2006. 琉球産鞘翅目ハネカクシ科デオキノコムシ属概説. 甲虫ニュース, (155): 11–15.

(保科英人 福井大学教育地域科学部)

【短報】和歌山県におけるババチビドロムシの記録

ババチビドロムシ *Babalimnichus masamii* M. Satô は海岸性のチビドロムシの一種で、千葉県以西の本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島に広く分布することが知られている(中島, 2005; 小野ら, 2012; 吉富, 2011, 2014)。筆者は記録のなかった和歌山県で本種を採集しているので報告する。

2exs., 和歌山県すさみ町江住江須崎, 20. VII. 2015; 3exs., 同所, 12. VIII. 2015. ともに筆者採集・保管(図1)。

末筆ながら、文献記録をご教示頂いた吉富博之博士(愛媛大学)と松野茂富氏(和歌山県立自然博物館)にお礼申し上げます。



図1. 和歌山県産ババチビドロムシ (スケールは1.0 mm)。

引用文献

中島 淳, 2005. ババチビドロムシの九州(宮崎県)からの採集記録. 甲虫ニュース, (151): 17–18.
小野広樹・亀澤 洋・菅谷和希, 2012. 千葉県における海岸性甲虫2種の記録. さやばねニューシリーズ, (5): 47–48.
吉富博之, 2011. ババチビドロムシの四国からの採集記録. さやばねニューシリーズ, (3): 22.
吉富博之, 2014. 伊豆諸島の水生甲虫類. さやばねニューシリーズ, (16): 26–31.

(岡田亮平 550-0015 大阪市西区南堀江 4-15-7-402)